報告

日韓技術士会議に参加して

田　中　真　也、永　田　泰　浩、今　野　　徹

1．開催都市の紹介

大邱（テグ）広域市は、大韓民国南部の都市であり、ソウル、釜山、仁川に次いで韓国で 4 番目の都市である。この大邱広域市で開催された今回の日韓技術士会議には、北海道青年技術士協議会から田中、今野、永田の 3 名が参加した。

ソウル駅で韓国の新幹線 KTX に乗り換え、2 時間弱で大邱広域市の玄関、東大邱駅に到着した。人口 200 万人を上回る大都市であるが、東大邱駅前は比較的のどかな雰囲気であった。大邱広域市には、昔から薬の取引が行われた薬令市があり、現在も薬屋横丁といった雰囲気で、漢方薬店が集中していた。そのせいか、東大邱駅の売店には朝鮮人参や怪しげなゼリーなど、地域性を生かした土産物が並んでいた。

写真1　東大邱駅前（東京の荒木氏、今野氏、田中氏）

2．本会議と晩餐会

本会議の開催された EXCO 大邱（大邱展示コンベンションセンター）は、市街地の北東に位置し、地下鉄駅からやや離れていたこともあり、大邱での移動はタクシーが主な交通手段となった。このタクシーの運転がかなり荒い。助手席に乗った人は不必要に加速するドライバーの運転と急減速にヒヤ汗をかき、後部座席に乗った人は乗り物酔いで気持ち悪い状態で会場入りをした。

写真2　EXCO大邱（大邱展示コンベンションセンター）

本会議は平成 23 年 10 月 14 日の午前から開催された。余談だが、EXCO 大邱は太陽光や地熱、風力などの再生可能エネルギーが導入・展示（写真 3）されており、韓国のこの分野への力の入れ具合が伝わってくる。

写真3　EXCO大邱の再生エネルギー情報板

午前中の本会議は、厳粛な式典の後、韓国は「白頭山火山と火山活動」を、日本は「災害大国NIPPONからの発進」をテーマに、日韓それぞれの代表による基調講演が行われた。

写真4　本会議の様子

EXCO大邱では日韓技術士会議の他にも様々な催しが開催されており、昼休みにはこれらを見学することができた。

まずは、「大邱メディカルツアー」の展示。大邱には数多くの医療研究機関が集積しており、東洋医学と西洋医学の融合による先端医療から美容整形に至るまで幅広いサービスが提供されているとのこと。このブースではストレスチェック、簡易診断を踏まえた針治療が体験でき、田中氏は実際に針治療を体験した。一方、同行の永田氏については、ストレスチェックの結果、針が振り切れる程のノンストレス状態であることが発覚し、簡易診察の結果、針治療の必要なしと判断され、体験できずに終わった（寂）。

写真5　メディカルツアーでのカウンセリング

また、「大邱フードツアーEXPO2011」では世界各国の食文化が紹介されるとともに、韓国の食材を世界に発信するイベントが開催されていた。ここでは、写真6のように、日本のマンガに出てくる食事も大々的に展示されており、日本のマンガの国際的な評価の高さを感じた。

これらの展示を通じて、官民一体となって多様な分野で世界市場を目指す韓国の本気度を感じた。

写真6　ハングル版の「美味しんぼ」

昼からは下記の5つの分科会が設けられ、それぞれ活発な発表・討論が行われた。

・第1分科会「環境・資源・エネルギー・国土・観光」
・第2分科会「建設・交通・安全・防災」
・第3分科会「技術者倫理・技術者資格・FTA」
・第4分科会「電気電子・情報通信・機械」
・第5分科会「英語発表」

写真7　分科会の様子

このうち、第１分科会では日本の原発事故を受け、核物質の飛散シミュレーションが発表された。この中で、中国で建設が予定されている数十基の原発にトラブルが生じた場合や、隣接する国からの核弾頭による攻撃の場合など、日本にいるとあまり現実味を帯びた議論とならないジャンルにも取り組まれているのが印象的であった。

分科会のあとに開催された晩餐会では、両国会長及び来賓の大邱市長の挨拶の後、韓国の伝統的な民族舞踊やコーラスなどが披露された。

写真8　晩餐会の様子

また、各テーブルでは、韓国の技術者との情報交換が行われ、有意義な時間を過ごすことができた。

【情報交換の一部】

・仁川国際空港は干潟の上に建設されているが、支持層の岩盤が直下にあるので耐震性がある。
・韓国の環境法令は厳しく、空港建設により失われた干潟の生態系は別な場所に再生している。
・韓国は儒教の国なので、先祖代々の農地への執着が強く、ウロコ柄の畑を効率のよい大区画・整形化された畑に整備することができない。
・韓国の農村の真ん中に突如出現するタワーマンションはコンパクトシティの思想に基づくものではなく、投資対象として建設されたものである。

3. 日韓親善サッカー大会と懇親会

日韓技術士会議の本会議に先だって、10 月 13 日には、日韓親善サッカー大会が行われた。

日韓青年技術士の交流を目的に、日韓技術士会議にあわせて行われるようになった日韓親善サッカー大会。「レッドデビル」の名で知られる韓国チームは、強靱かつ無限の体力を兼ね備える強敵。昨年日本で開催された第 40 回大会でのサッカー大会において、初めて日本が勝利したものの、アウェーでの日本の勝利はまだない。

今回の会場は、大会１ヶ月ほど前に、ウサイン・ボルトが衝撃のフライング失格により、スタートさえもできなかった世界陸上の会場「大邱スタジアム（オリンピックスタジアム）」（の補助球場）。そのフィールドに、日本の技術士の精鋭達が、ジャパンブルーのユニフォームに着替え、ピッチに登場すると、6 万 5 千人（妄想）の日韓のサポーター達からは、地鳴りのような歓声が沸き上がった。

写真9　大邱スタジアム（オリンピックスタジアム）

試合は、フレンドリーマッチ２本、レギュラーマッチ２本の 20 分×４＝80 分で行われた。さすがホームの韓国チーム。フレンドリーチーム、レギュラーチームの２チームを作っても、さらにベンチに余裕がある陣容。一方、アウェーのジャパンチームは、ぎりぎり１チームが作れる状況。交代なしで、80 分を駆け回った。

終始韓国に押され気味の試合展開。十分な連携を練習してきたことが明らかな、早いパス回しに翻弄されながらも、親善試合とは思えないほどの今野選手の反則ギリギリのプレーや、永田選手のラグビーさながらのタックルで決定機を作らせない。韓国チームのシュートがポストに当たる幸運やキーパー荒木選手の好セーブもあり、４本ともにスコアレスのまま終了、PK 戦に突入した。

韓国チームは２本外し、日本チームは１本外し、後攻日本５人目のキッカーは北海道が誇る蹴球技術士今野選手。キーパーと目をあわせることなく、振り抜いた右足は、反応したキーパーの指先をはじきとばして、ゴール右隅に鋭く刺さり、日本チームが、アウェーで初めての勝利をつかみとった。折り重なって喜ぶ日本チームに、日韓どちらのサポーターからも拍手と歓声が鳴り止まなかった…ここまで、かなり主観的な着色あり…。

懇親会は、韓国滞在中、最も韓国らしく美味しかった韓国焼き肉。ピッチを離れると、サッカーボールを追い求めて築いた友好の絆は、言葉の壁を越え、何度も乾杯を交わした。

写真10　盛り上がる懇親会の様子

MVP は埼玉県環境検査研究協会の山崎浩司技術士、鉄道総合技術研究所の荒木啓司技術士であった。北海道から参加のいぶし銀反則王今野と無駄走り永田は、写真 11 のように気分だけ受け取った。

写真11　気分だけMVP…次回こそMVPを…悔

4. 日韓の交流について

大邱での数日間は非常に充実した日々であった。韓国技術士会の皆さんは、本当に温かいおもてなしをしてくださり、非常に良い交流の機会となった。

帰りに立ち寄ったソウルでは、繁華街明洞の歩行者天国で、竹島のデモ行進が行われていた。これも日韓のひとつの関係なのだと実感した。韓国と日本の間には簡単に解決できない問題が多々あるが、我々技術士としてできることを、少し考える必要があると感じた。

写真12　大邱の屋台にて

田　中　真　也(たなか　しんや)
技術士(農業／総合技術監理部門)
公益社団法人 日本技術士会北海道本部
青年技術士交流委員会 委員長

株式会社 環境保全サイエンス

永　田　泰　浩(ながた　やすひろ)
技術士(建設／総合技術監理部門)
公益社団法人 日本技術士会北海道本部
青年技術士交流委員会 副委員長

(社)北海道開発技術センター

今　野　　徹(こんの　とおる)
技術士(農業部門)
公益社団法人 日本技術士会北海道本部
青年技術士交流委員会 幹事

北海道農政部畜産振興課